大阪薫英女学院中学校高等学校
校長　田中　肇

令和７年度　大阪薫英女学院中学校高等学校　学校評価

１　めざす学校像

「敬・信・愛」を建学の精神とする本校は、「人との関わりの中で、自分らしく輝く女性を育てる」ことを目標に掲げ、世界で活躍するとともに生涯にわたって幸せに充実した人生を送ることのできる人間の育成をめざしています。

自らの人生を切り拓き、いかなる苦難にも負けることなく「たくましく生きていく」ためには、「豊かな人間性」とともに「確かな学力」が不可欠であることから、これら二つを一体のものとして捉え、よき集団の中で「豊かな人間性（人と関わる力）」を育むとともに、互いに励まし合い競い合って「学力の向上」を図ります。

薫英教育で、生徒一人ひとりの価値ある未来を創造します。

１　行事をはじめとする学校生活を通して友情を育み自立心を養う
２　校内外の教育活動を通して自らの将来を見据える力を養う
３　自分の目標や夢の実現に向けた学力を育成する

２　中期的目標

１　行事をはじめとする学校生活を通して友情を育み自立心を養う

（１）ともに競い合い、励ましあって向上する集団の育成に努めます。

学校行事に真剣に取り組むことで、みんなでやり遂げた達成感を味わうとともに、互いの存在に気づき尊重する豊かな心を育みます。また、行事への取組みを通してクラスへの帰属意識を養い、相互に良い刺激を与え合う集団づくりをめざします。

＊生徒向け学校評価アンケートの「学校行事全般に関する項目」について、令和9（2027）年度までに肯定的回答90％以上をめざします。

（２）規範意識と豊かな心を育む

基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努めます。また、生徒会活動・クラブ活動の活性化を図り豊かな心を育みます。

＊基本的生活習慣の象徴として、令和9（2027）年度までに早朝指導を前年比10％減にすることをめざします。
＊生徒向け学校評価アンケートの「人権を大切にする心や、社会のルールを守る態度を育てている。」令和9（2027）年度までに肯定的回答75％以上をめざします。
＊生徒向け学校評価アンケートの「生徒会活動に関する項目」を令和9（2027）年度までに肯定的回答70％以上をめざします。
＊生徒向け学校評価アンケートの「クラブ活動の活性化に関する項目」を令和9（2027）年度までに肯定的回答70％以上をめざします。

（３）安心・安全な学校づくり

いじめを許さないことはもとより、互いを認め合える集団作りを推進します。また、そのための方策の一環として、保護者との連携の強化に努めます。

＊生徒・保護者向け学校評価アンケートの「人権に配慮した指導」に関する項目に対する肯定的回答のさらなる向上に努めます。
＊生徒・保護者向け学校評価アンケートの「家庭連絡や意思疎通、信頼感」の項目に対する肯定的回答を令和9（2027）年度までに80％以上をめざします。

２　校内外の教育活動を通して自らの将来を見据える力を養う

（１）留学の充実

姉妹校との連携を深め、安心安全な留学を基本とする「長期留学」のさらなる充実に努める。現地アドバイザーとの連絡を密に生徒の状況把握に努め、留学の円滑な実施に向けて努力します。重大事故ゼロはもとより、姉妹校との連携を引き続き促進し、プログラムのさらなる質的向上を図ります。

＊長期留学中の重大事故０を堅持します。
＊留学説明会や保護者交流会を定期的に実施し、安心感のある留学生活に勤めます。

（２）海外研修の充実

単なる観光ではなく体験を重視したプログラムを実施し、現地において異文化理解や国際交流が深められるよう努めます。また、これまで実施してきたニュージーランド5週間の短期留学やイギリス・カナダ等への２週間語学研修、海外修学旅行のさらなる充実を図ります。

＊参加生徒へのアンケートでの満足度90％以上を維持します。

（３）「実用英語技能検定(英検)」の取組み

全校を挙げて英検に取り組み、中学卒業時で準２級以上、高校卒業時で普通科は２級以上、国際科は準１級以上の取得を目標とします。

＊それぞれの取得率を、令和9（2027）年度までに準２級70％、２級40％、準１級45％以上をめざします。

３　自分の目標や夢の実現に向けた学力を育成する

（１）授業の充実

公開授業、研究授業を定期的に実施し、「分かる授業、興味を持てる授業」に努めるとともに、さらなる授業改善に取り組みます。

＊生徒向け学校評価アンケートの「授業に関する項目」について、令和9（2027）年度までに肯定的回答70％以上をめざします。

（２）学習意欲の喚起

「一人で勉強しない」を合い言葉に、友人とともに学習に取り組むことで、学力のさらなる向上を図ります。

＊生徒向け学校評価アンケートの「学習活動を通じた学力向上に関する項目」について、令和9（2027）年度までに肯定的回答70％以上をめざします。

（３）夢を実現する進路指導

生徒が主体的に進路目標を定め、実現できるように努めます。

＊進路相談・進路ガイダンスの実施により生徒の進路実現を支援します。
＊生徒向け学校評価アンケートの「各種講習や自習室が進路実現につながる」の肯定的回答を、令和 9（2027）年度までに 80％以上をめざします。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析

【総括】

（生徒アンケートより）

昨年肯定評価が８割を超えた項目は８項目であったが、それらに加えて今年度は、「自分の考えを発表したり、まとめたりする機会がある」（肯定的回答 67.6%→83.7%）「カリキュラムは進路希望・適性などに応じたものになっている」（肯定的回答 78.6%→80.3%）「クラブ活動は活発で充実しており、活動時間や活動内容は適切である」（肯定的回答 74.8%→82.3%）「学校行事や生徒会・ＨＲ活動などに積極的に参加・参画できる工夫がされている」（肯定的回答 78.9%→82.2%）の４項目の肯定評価が８割を超えた。

全体的に見ても、25 項目中 21 項目で肯定的回答率が上昇しており、下がったものは４項目であったが、いずれも微減である。

「生徒指導の方針には納得できる。」（肯定的 65.7%→67.2%）「教職員は、いろいろな問題を見逃さずに対応している。」（肯定的 62.5%→67.1%）は低い水準での微増であり、今後は視野を広げ、カウンセリングマインドを持った生活指導を行っていかなければならない。

トイレや教室を含む学校の施設・設備については満足度が低いものの、昨年度より向上した。（肯定的回答 48.6%→55.9%）

生徒にとって学校生活全体への満足度、それに対する教員の指導やかかわりに対する納得度が高くなってきたことが読み取れる。

（保護者アンケートより）

昨年度より肯定回答割合が増加した項目は高校で 25 項目中 13 項目あり、中学は 25 項目中 15 項目あった。中でも「子どもを入学させてよかった」については高校 92.8%、中学 94.1%という高評価であった。

高校については「講習や補習、放課後自習室は、子どもの学力向上や希望進路の実現に役立っている」についての肯定回答は９割近くになり、学校が学力向上や希望進路の実現に注力していることに保護者が理解していただいていることが推察できた。

中学については「BLEND などを通じて家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っており、信頼感がある」についても肯定回答は昨年の８割から今年は９割を超え、学校に信頼を寄せていただいていることが推察できた。

「ＰＴＡ活動は充実している」に肯定的回答をした方は高校・中学ともに９割を超え、PTA 活動が充実していることもうかがわれる。

（教職員アンケートより）

昨年度より肯定回答が増加したものは 25 項目中 15 項目であった。中でも昨年度肯定回答率が低かった「入試改革等を踏まえて授業を主体的・対話的で深い学びの実現等、更なる向上を目指している」（肯定的回答 37.2%→58.3%）「生徒指導方針は適切で、全ての教職員に共有されている」（肯定的回答 38.6%→60.4%）「生徒が安全で効果的な学校生活を送れるよう、行事の見直し等に取り組んでいる」（肯定的回答 52.3%→68.8%）「各分掌や学年・教科が連携し、組織として機能の向上に取り組んでいる」（肯定的回答 45.5%→58.3%）「授業力の育成や校務遂行等、教育活動に関する学習機会が適切に提供されている」（肯定的回答 15.9%→37.5%）は肯定的回答率が大幅に向上した。肯定回答が減少したものは１０項目あるが、すべてが５%までの微減であった。

【授業、学力等】

・生徒が感じる授業の分かりやすさや保護者が感じる子どもの授業満足度は、昨年度より向上し、保護者は８割を超え、生徒は８割に近くなった。
・「講習や補習、放課後自習室」については、今年度も肯定回答が生徒・保護者共に８割を超えた。
・今年度も「学習評価が適切で納得できる」の肯定回答が生徒、保護者ともに８割を超えており、教員が行う評価の妥当性、信頼性について十分満足されていると判断できた。

【進路指導等】

・「教職員は、希望進路の実現に向けて親身になってくれる。」は、肯定回答が８割を越え、大学進学ゼミ・Ｊトレーニング・長期休業中の講習といった学習支援は、生徒の進路実現によい環境となっている。保護者も放課後自習室など、学校の中で進路実現できる環境には高評価である。

【生徒指導等】

・特別支援・人権委員会やハイパーQU などを活用し、生徒の抱える学校生活の問題について早期発見・早期対応ができるように努めている。
・保護者・生徒ともに生徒指導に関する項目の肯定的回答率が低い。普段から生徒の様子をよく観察し、積極的に教員からの声かけをし、今まで以上に生徒に寄り添った生徒指導をしなければならない。

【その他、学校運営等】

・施設・設備については、経年から高い評価ではなかったが、肯定的回答も増えている。生徒の安全確保を最優先に定期的な点検などにより満足される学習環境の整備に努める。

学校関係者からのご意見

・進路への早い時期からの取り組みは非常にありがたい。学年でまとまって取り組んでほしい。
・さらにメンターの利用率を上げるため、告知や内容の工夫をしてほしい。
・世界情勢が大きく変化しているので、留学の情報をしっかりと伝えてほしい。
・ＰＴＡ活動の充実がアンケート結果に出ていることはとてもありがたいことである。
・式などに合わせて、薫英の校歌の１番から四番を歌える機会を与えてほしい。
・「薫英」の教本をぜひ活用し、薫英の理念を学んでほしい。

3　本年度の取組内容及び自己評価

	今年度の重点目標	具体的な取組み計画内容	評価指標	自己評価
1　行事をはじめとする学校生活を通して友情を育み自立心を養う	(1)ともに競い合い励ましあって向上する集団の育成に努める。	ア．学校行事に真剣に取り組み、互いの存在に気づき尊重する「豊かな心」を育む。また、行事準備期間を重視しさまざまな葛藤を経てクラスへの帰属意識を養い、ともに支えあう集団を育成する。	ア．生徒対象学校評価アンケートにおいて、行事に対する肯定的回答90%以上（R9）	ア．「行事の充実」について肯定的な回答78.8%「行事やＨＲ等で、将来の生き方や進路を考える機会が多い」79.6%（△）。　昨年度より微増であった。引き続き振り返りなどを活用し、豊かな心を育む。
	(2)規範意識と豊かな心を育む	ア．基本的生活習慣の確立のため、遅刻者を減少させる。	ア．早朝指導を前年比10%減	ア．昨年度、中学0件、高校104件だったのが今年度は中学2件、高校24件と、全体としては大幅に減少している。(○)
		イ．規範意識の醸成	イ．学校評価アンケートで75%以上(R8)	イ．「社会のルールを守る態度を育てようとしている」について肯定的な回答は中学保護者88.6%高校保護者85.2%生徒77.4%とすべて昨年度より向上した。(○)月例の風紀検査や必要な生徒への指導、日々の生活指導を粘り強く行い規範意識の醸成に努める。
		ウ．生徒会活動の活性化を図り、生徒の主体的な活動を支援する。	ウ．学校評価アンケートでの肯定的回答70%以上(R8)	ウ．「生徒会活動は活発で充実しており、活動時間や活動内容は適切」に対する肯定的回答が中学保護者87.7%高校保護者86.7%生徒83.0%と昨年度より向上した。(◎)　さらに生徒会活動を充実させていきたい。
		エ．クラブ活動の活性化	エ．学校評価アンケートでの肯定的回答70%以上。(R8)	エ．「クラブ活動は活発で充実しており、活動時間や活動内容は適切」の肯定的回答が中学保護者71.1%高校保護者76.5%生徒82.3%とすべて昨年度を上回った。(○) さらに、すべての生徒にとって充実したクラブ活動としていきたい。
	(3)安心・安全な学校づくり	ア．いじめを許さないことはもとより、互いを認め合える集団作りを推進します。本校「いじめ防止基本方針」に基づきいじめ事象の未然防止に努める。	ア．学校評価アンケートで「人権に配慮した指導」の肯定的回答のさらなる向上をめざす。	ア．「人権を尊重した指導」に対する肯定的回答は、中学保護者93.9%高校保護者85.2%生徒77.4%と高校保護者と生徒で微減した。（△）。 機会をとらえて実施するQ-Uなども活用し、いじめ事象をはじめとする人権侵害の未然防止に努める。
		イ．保護者への情報発信に努め、連携強化に努める。	イ．保護者アンケート結果で「家庭との連絡や意思疎通、信頼感」の肯定的回答80%を目標とする。(R8)	ウ.保護者アンケートは肯定的回答中学保護者92.9%高校保護者87.5%と昨年度より増加した。BLENDを活用するようになり、緊急連絡という限られた情報にとどまらず、欠席連絡や学級通信の配信などが行えるようになった。（◎）

	今年度の重点目標	具体的な取組み計画内容	評価指標	自己評価
２　校内外の教育活動を通して自らの将来を見据える力を養う	（1）留学の充実	ア. 全ての海外における学習が安全に行えるよう体制の整備、生徒の支援に取り組む。現地との連絡を密にして生徒を支援する。留学中も保護者交流会を定期的に実施し、保護者の安心に繋げる。	ア. 生徒の安全にかかる重大事故０に努める。	ア. ニュージーランドの長期留学も現地アドバイザーとの連携により安全に帰国させることが出来た。（〇） 短期留学についてもアドバイザーのいるニュージーランドで実施できた。
		イ．１年間の留学を意義あるものにするために、親元を離れ海外で生活する決意を固め、具体的目標を持って留学に望むよう、留学説明会を開催する。	イ. 安心安全な留学となるよう留学説明会や保護者交流会を開催する。	イ. 留学説明会は5・8・11月と計３回実施できた。（〇）
	（2）海外研修の充実	ア. 各種海外研修・修学旅行について、事前の準備から計画的に行い、内容の一層の充実に努める。	ア．海外修学旅行後の生徒アンケートにおいて満足度90%以上	ア. 海外修学旅行実施後のアンケートによる生徒満足度は97.2%であった。（◎）
	（3）実用英語技能検定(英検)の取り組み	ア．「英検取組み週間」を設定し、クラスの仲間とともに、より上級にチャレンジする。	ア. 中学卒業時に英検準2級以上70%、高校卒業時に2級以上40%の取得。国際科卒業生準1級取得率45%以上	ア. 英検について、中学卒業時の英検準2級以上取得は68.8%、高校卒業時の2級以上取得は54.6%また国際科卒業生準1級取得率29.3%と国際科の成果指標は達成できなかった。　（△） しかし、１級取得者は24年連続して輩出。国が目標とする卒業時準2級以上取得者50%を大きく上回る79.8%であった。
３　自分の目標や夢の実現に向けた学力を育成する	（1）授業の充実	ア．公開授業および各教科による研究授業・公開授業を実施し、授業力の向上を図る。	ア. 生徒向け学校評価アンケートの「授業に関する項目」肯定的回答70%以上	ア．「生徒一人ひとりを大切にした丁寧でわかりやすい授業」に対する肯定的回答は生徒78.1%と昨年度より向上した。（〇）授業アンケートも実施することができた。
	（2）学習意欲の喚起	ア．「一人で勉強しない」を合い言葉に友人とともに学習に取り組み学力の向上を図る。	ア. 生徒向け学校評価アンケートの「授業に関する項目」肯定的回答70%以上	ア.「様々な講習や補習、および放課後自習室は、自分の学力向上や進路実現に役立っている」に対する肯定的回答は生徒80.5%であった。（〇）
	（3）夢を実現する進路指導	ア. 主体的に進路目標を定め、真に望む進路が実現できるよう支援に努める。	ア. 進路相談・進路ガイダンスを実施する。	ア. 進路ガイダンスを高1で3回、高2で4回実施した。高3においては、保護者対象を2回、生徒対象を5回実施した。生徒の進路実現の支援に努めた。(◎)
		イ. 大学進学ゼミ・Jトレーニング・理数指導室。また、放課後学習システムとしてのメンター自習室を活用して学力向上を図り、希望進路を実現させるための支援を行う。	イ. 生徒アンケート「各種講習や自習室が進路実現につながる」の肯定的回答80%以上。 (R9)	イ.「講習、補習、放課後自習室は学力向上や進路実現に役立っている」の肯定回答は、生徒80.5%であった。　(◎) 大学進学ゼミ、Jトレーニング、学習メンター運営の自習室など校内で進路実現を可能にする環境は保護者にとっても高評価であった。